

2020 インターハイ 特別基金趣意書



©インターハイ
マスコットキャラクター
ウイニくん

高校スポーツに対し深い理解と支援をいただいている企業や法人・団体の皆様へ

毎年夏に開催される全国高等学校総合体育大会（インターハイ）は、昭和 38 年に第 1 回大会が開催されてからすでに半世紀が過ぎ、運動部活動に取り組む高校生アスリートにとって最高の舞台であるとともに、開催地の高校生が高校生活動を通して大会に関わるなど、多くの国民の皆さんに勇気と希望、そして感動を与える国民的行事として成長してきました。

インターハイは、全国 47 都道府県から 6,000 校以上、3 万 6 千名余りの選手、監督・コーチが参加し、60 万人以上の観客数を数える全国規模のスポーツイベントであり、オリンピックや国際大会等で活躍する我が国の多くのトップアスリートが出場し競い合うことで更なる飛躍を遂げるなど、競技力の向上にも大きな貢献をしてまいりました。

さて、2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催決定に伴い、2020 年（平成 32 年度）インターハイについては、当初予定していた北関東 4 県での全 30 競技の開催が困難な状況になり、一部競技を除き全国各地に分散して開催しなければならない事態が生じています。

オリンピック・パラリンピックの東京開催という国家的プロジェクトの一方で、現在、2020 年（平成 32 年度）インターハイの開催そのものが危ぶまれるという大変厳しい状況にあります。

とりわけ、分散開催での開催経費が大きな問題となっています。これまでのように開催地からの負担金・補助金だけに頼るのではなく、全国高体連としても開催経費を確保することが必要になりました。

すでに半世紀が経過し我が国のスポーツシーンの中で大きな役割を果たしてきたインターハイを中止せずに実施することにより、インターハイを目指し、日々真摯に取り組んでいる高校生アスリートの出場機会が奪われてしまうことだけはなんとしても避けたいと考えています。

ついては、日頃より高校生スポーツに対し深い理解と関心をお持ちで、様々な形でご支援をいただいている企業や法人、団体等の皆様にも、2020 年（平成 32 年度）のインターハイを支障なく開催するため、募集要項を参照いただき、「2020 インターハイ特別基金」への協力をお願い申し上げます。

平成 28 年 6 月

公益財団法人全国高等学校体育連盟
会長 岡田 正治